

The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

November
ISSUE



November, 2019
Volume 96

Message from the Head of Schools

10月初旬はノーベル賞の発表が続き、今年は化学分野で吉野彰氏が、John B. Goodenough 氏、M. Stanley Whittingham 氏と一緒にノーベル化学賞を受賞することが決まりました。リチウムイオン電池に関する研究でした。リチウムを使う二次電池を提唱した Whittingham 氏、電池の正極の材料としてリチウム金属化合物を見出した Goodenough 氏、陰極に炭素材料を用いると安全性、効率の点で優れていることを明らかにした吉野氏と、鍵となる人物3人の同時受賞でした。近年は、毎年のようにノーベル賞受賞者が日本人や日本に関係する人物から出ており、うれしい限りです。1949年に湯川秀樹氏が日本人で初めてノーベル賞の榮譽に輝かれて以来、1900年代の日本人ノーベル賞受賞者は8名でしたが、2000年以降、20名を数えるに至っています（日本国籍でない人物も含んでいます）。もちろん、昔から多くの候補者が名を連ねてきたようですが、東洋人にはまだ早いという風潮もあったそうで、近年になって、その枠も取り払われてきたのではないかとされています。個人的には、これまで存じ上げている受賞者に接して、皆、努力の人であったと思えますし、それも、常識を超えた努力が感じられます。

江崎玲於奈氏が同志社中学校に在籍されていたことは、同志社人には良く知られています。その江崎氏が【ノーベル賞を取るために、してはいけない5か条】を日経新聞に書かれたことは有名で、以下のような内容です。

第1 今までの行き掛かりにとらわれてはいけない。

呪縛やしがらみに捉われると、洞察力は鈍り、創造力は発揮できない。

第2 大先生を尊敬するのはよいが、のめり込んではいけない。

第3 情報の大波の中で、自分に無用なものまでも抱え込んではいけない。

第4 自分の主義を貫くため、戦う事を避けてはいけない。

第5 いつまでも初々しい感性と飽くなき好奇心を失ってはいけない。

自然科学の世界で、日本人として企業人がノーベル賞に選ばれるのは、田中耕一氏（島津製作所）に続いて、吉野氏（旭化成）が二人目です。ただ、2014年に物理学賞を受賞した中村修二氏は、日亜化学時代の業績がノーベル賞の大きな要素を占めています。

何かのにめりこんでいく、そんなのめりこめることを子どもたちが見つけてくれることを期待しています。そのため一つの効果的なシステムが、「探究の学び」ではないかと思っています。独りよがりではない自己満足は、大きな足跡を残すための必要条件であると思えるのです。

学校長 太田 哲男



同志社国際学院初等部
〒619-0225 木津川市木津川台 7-31-1

Doshisha International Academy Elementary School
7-31-1 Kizugawadai, Kizugawa City 619-0225

<http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

11 月：感謝 November：Gratitude

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

ヨハネによる福音書 3 章 3 節（聖書協会共同訳）

日本キリスト教団の教会暦では、今年は 11 月 3 日の日曜日が「聖徒の日（永眠者記念日）」といい、天に召された信仰の先達全てのために心を合わせて祈る日になっています（原則は 11 月 1 日）。それは故人のためというよりは、故人がこの世にあった日を偲び、残された我々が彼らの良い模範に倣い、心を尽くして神に仕える生活を送るためなのです。プロテスタントの信仰では召された者の魂はそれをくださった方の御許に帰り、安らいでいることを信じるので、死者のための祈りはせず、むしろ悲しみにくれて心弱りがちな遺族のために祈るのです。

さて、「復活」というのは、何もイースターに限られたことではなく、年間通じてキリスト教の大事なテーマです。上掲の聖書箇所は、ユダヤ教のラビと呼ばれ、知識も教養も深く、かつ老練の教師であったニコデモという人が、年齢的には恐らく親子ほども違うイエス様のところに夜、話しに来た場面です。この人はプライドの高い普通のラビたちとは違って、比較的心の柔らかい人だったように見受けられますが、それでも復活に関しては自分の常識の枠を超えた思考をするのは難しかったようです。「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」というイエス様のお言葉に対し、「年を取った者が、どうして生まれることができますよう。もう一度、母の胎に入って生まれることができるでしょうか。」などと、ありきたりの返答しかできませんでした。

1 年生の授業参観でもご紹介したのですが、「世界イースター童話集」（上沢謙二編、ヨルダン社 1965 年版）という本の中に、「沼の中と沼の上」というお話があります。古い沼の中に這っている多くの地虫たちは、自分たちの仲間が次々と葦の茎を伝って別な世界に上っていくのをただ怖いと感じ、両方の世界を知るカエルがいくら「今に君たち全てが別の世界に行く。その時は姿がすっかり変わり、羽が生えて水のない大空を飛んでいく。」と説明しても、信じようとはしませんでした。狭い沼の中が世界の全てで、今の姿が本当の自分でそれ以上は変わりようがない、と頭から思い込んでいる者には、それ以上の世界や姿は考えられなかったからです。

我々はこの地虫たちが、「ヤゴ」と呼ばれるトンボの幼虫であることを知っています。しかしながら、我々人間にはイエス・キリストが信じる者に新しい命と世界とを約束してくださっていることを、知っているのでしょうか。



Christian Education Committee 石川眞弓

<お知らせ>

① 11 月 7 日（木） 収穫感謝礼拝

・お子様に米一合をお持ちください（その他、サツマイモなど保存のきくお野菜も歓迎です）。礼拝で感謝の祈りを捧げた後、路上生活者支援の為に用いられます。

・当日はアジア学院研究生のテベレタアケ・トカンテタアケさん（キリバス共和国）が、礼拝講師として来られます。

② 11 月 15 日（金） DIA 点灯式 ・別紙案内を御覧ください。

③ 11 月 27 日（水）同志社創立記念礼拝 in DIA 講師：三木メイ先生（同志社大学キリスト教文化センター准教授）

④ 11 月 29 日（木）同志社創立記念日祈祷会 午前 9 時より若王子山頂にて。休校ですが、奮って御参加ください。

6年生アーモスト・ボストン修学旅行(2019年9月25日～2019年10月2日)

【子ども達が肌で感じたこと】

6年生は、片道13時間のフライトを経て、アメリカのアーモスト・ボストンへ6泊8日の修学旅行に行ってきました。この期間で、子ども達は今後の成長に大きく影響を与えるものをたくさん吸収できましたが、特に重要と感じた2点を紹介します。

<1> 日常の学校生活と学習で培った英語を使って、Open-mindedな姿勢でCommunicatorとして現地の人々とコミュニケーションを取ることができるのか、子ども達にとっては大きなチャレンジでした。教員の力を頼らず、自分達だけで意思の疎通を図り、つまずいても強い心で自分が伝えたい事を主張し、相手が話す事を理解しようとする事はとても勇気がいることですが、どの場面でも笑顔でその時間を楽しむ子ども達の姿が見られました。現地小学校のIMSとの交流、エリックカール美術館やボストン美術館でのワークショップ、ベネスキ自然史科学博物館での解説、ショッピングモールでの買い物等、どこであっても意欲的に自ら質問したり会話を楽しんだりしていて、関わりのあったすべての人達から褒めていただくことができ、子ども達はとても大きな自信を持つことにつながったと思います。



(左写真)IMSとの交流会。バディと対面後、習字、あや取り、おはじき等を日本文化として教え、自己紹介や日本からのプレゼントで、とても仲良くなりました。帰国後に、メール友達としてつながる子もいました。



(中写真)ボストン美術館のワークショップ。解説を聞きながら色々な質問をしたり、模写をして自分のスケッチの説明をしたりして、有名な絵画を目の前にして多くの事を学びました。



(右写真)ベネスキ自然史科学博物館。本物の恐竜の化石や足跡の説明を分かりやすくしていただい、熱心に聞き入る子ども達からもたくさんの質問が出されて有意義な時間になりました。

<2> キリスト教主義の本校児童にとって、オールドサウス教会の礼拝に参加できたことと、アーモスト大学のジョンソンチャペルを訪れたことは、至福に満ちた瞬間でした。新島襄がプロテスタント会衆派メンバーとしてオールドサウス教会に所属していたこともあり、礼拝に先立ってDIAの紹介を全体にして下さったり、神聖な儀式に参加させていただいたり、温かいもてなしを受けることができました。また、新島襄が同志社設立を決意したアーモスト大学のジョンソンチャペルで一時的だけでも彼の肖像画と共に空間を共有できたことは、言葉では言い表せられない感慨深いものがありました。一人の青年の努力のおかげで、こうして日本からたくさん子ども達を連れてくることのできたと思うと、感謝の念でいっぱいになりました。この2ヶ所の訪問は、子ども達の心に刻み込まれた時間であり、一生の宝となったことでしょう。



(左写真)アーモスト大学ジョンソンチャペル。チャペル前方右下が、新島襄の肖像画。とても重要な場所であり、第2次世界大戦中であっても外されることがなかったぐらいの敬意を持って壁に掛けられ続けている。実物を前にして、子ども達も彼の大志を感じられました。

(右写真)オールドサウス教会。重厚で美しい造りの教会で、パイプオルガンの素晴らしい音色と人々の歌声を聞き、神聖なものから感じられる温かな雰囲気、子ども達はひしひしと感じることができました。1時間ほどの礼拝時間は、あっという間に過ぎてしまいました。



事前学習を通して、歴史、建物、美術品等は知っていましたが、人々の優しさや心が通じ合った時の嬉しさ、キリスト教がもたらす温かな雰囲気等は、日本国内では学べないものでした。子ども達が同志社人として成長し国際社会で活躍する大人になるまでには、多くの転機があると思います。その時、この修学旅行で子ども達が肌で感じたことは、考える要素の一つにきっと加えられると思いました。小学生という早い時期に、このよう経験をすることができたことで、子ども達の将来の選択肢がぐんと増えていてほしいと希望が持てました。

1 年生宿泊学習

信貴山のどか村～学校での夕食

10月11日(金)、台風の進路を気にしながらでしたが、宿泊学習が始まりました。1日目は信貴山のどか村での芋ほり体験、芝生広場での学級遊び、帰校後のカレーライス、さつまいもスイーツづくり、キャンドルサービスがおもな活動内容です。雨が降る心配はなく、お弁当も芝生の広場で食べることができました。その後は自由に芝生の上で鬼ごっこをしたり、ボール遊びをしたり、クラスでアスレチックを楽しんだりしました。

学校に帰って来ると、教室にある大きな荷物を持って体育館に移動しました。小さい体に大きな荷物、1回で運べない人は2往復して、頑張って運びました。そしてシャワーを浴び、夕食をいただき、のどか村で掘ったおいもを使ってスイーツ(スイートポテト)を作りました。ボランティア保護者の皆様には夕食のカレーライス作り、スイートポテトの下ごしらえ、シャワーの段取りなど、本当にお世話になりました。おかげさまで子どもたちも安心して夜の活動ができました。ありがとうございました。

しかしながら、台風19号によって2日目の朝には警報が出ている可能性が高まったことから、子どもたちやお迎えに来てくださる保護者の皆様の安全を考慮し、ここで宿泊学習の活動は終了、夜間になりましたが保護者の皆様にお迎えに来ていただきました。でも1日目のおいも掘り、外でいただくお弁当、ワーワー言いながら楽しんだアスレチックは忘れられない思い出です。半年間の成長が見られた1日でした。



信貴山のどか村でのさつまいも掘り。たくさんとれました。



お弁当の後の遊び。広場で思いっきり遊んだ後、アスレチックへ行きました。



夕食(カレーライス)とさつまいもスイーツづくり。おいしくいただきました。



「新学習指導要領に対応する学校図書館！」

来年度から始まる新学習指導要領。(約10年ごとに改訂が行われます。国が定める教育課程の基準をまとめたもので、これを指針として、一条校の各学校は授業を行います。)それに伴い4月からすべての教科の教科書が改訂されます。その要となる国語の教科書には450冊以上の本が表紙付きで提示され、紹介文も載せられています。そのすべての本が来年度の初めには手にとって見られるようDIA Libraryでは今、準備を進めています。

新学習指導要領では国語の教科書の教材を学んで終わり!ではなく、そこで付けた力を活用して他の本、資料を読むことが出来るか、正確に読み取ることが出来るかの活用力が一番大切なことになります。新しい国語の教科書にそんなにもたくさんの本の紹介がされているのはそのためです。もちろん、文章を読んで理解することは紙媒体ではなく、インターネット上の情報についても同じです。そこに書かれている内容が理解できなければただのカット&ペーストに陥ってしまう危険を伴うため、さらに必要なことかもしれません。

LC(リテラチャーサークル)の時間だけでなく、UOIの時間の中で教科横断的に国語の力を培っているDIAでは、さらにUOIに関連した多くの本を読む必要があります。図書館ではUOIの各Unitの前に、司書教諭が関連本をたくさん集めてリストを作り、実際にそれらの実物の本を授業で実際に教える教師に手にとってチェックしていただいています。そして6週間のUnitの間貸し出しを行い、授業の中で活用していただいています。

さあ、教室で子ども達はたくさんの素敵な本に出合っているでしょうか?その学びの後、主体的に子ども達は図書館にやってきて思い思いの本に手を伸ばしているのです。

(司書教諭 上里 久美)

本の世界を
広げよう



一例ですが、こんなに丁寧に本の紹介がされています。もちろん、今子ども達が持っている国語の教科書にもあります。図書館にあるので、ぜひ読んでみてくださいね。(画像は光村図書4年生国語下り)

11月の主な行事・予定

1	Fri	G6 校外学習 (広島)
2	Sat	
3	Sun	文化の日
4	Mon	振り替え休日
5	Tue	Unit4(week5)
6	Wed	火災避難訓練 委員会 同志社女子大インターン
7	Thu	収穫感謝祭
8	Fri	
9	Sat	きずな祭
10	Sun	
11	Mon	Buffer week
12	Tue	G5 ゲストティーチャー
13	Wed	PYP プラン (午前中授業) 同志社女子大インターン
14	Thu	G6 国際中学推薦入試
15	Fri	点灯式
16	Sat	
17	Sun	
18	Mon	Unit5(week1)
19	Tue	PYP 保護者学習会
20	Wed	クラブ
21	Thu	
22	Fri	縦割り活動
23	Sat	勤労感謝の日
24	Sun	
25	Mon	Unit5(week2)
26	Tue	
27	Wed	クラブ
28	Thu	
29	Fri	創立記念日
30	Sat	G6 同志社女子中学推薦入試

参観・学期報告会

12月の主な行事・予定

- 11/25(月)~12/6(金) 参観・学期報告会
詳しくは後日お知らせします。
- 12/3(火) 人権研修会 (3時間授業 昼食なし)
- 12/6(金) クリスマス礼拝・キャンドルサービス
- 12/20(金) 終業礼拝
- 12/16~12/19 秋学期末カンファレンス(AM 授業)
図書館閉館(蔵書点検)